

2014年度 第2回 放射化分析研究会 拡大幹事会議事メモ

開催日時：2014年11月19日(水) 17:20～

開催場所：京都大学原子炉実験所 事務棟大会議室

出席者：松尾、海老原、大槻、石橋、関本、白井、高宮（記録係）

a) 前回議事録の確認および会員への周知方法について

・議事の記録担当者からの議事メモをもとに代表幹事の判断で公開に支障がある事項は削除もしくは修正を行い、これまで通り公開することとした。

b) 新幹事の役割分担の決定

・以下の分担案を幹事用 ML に流し、各幹事の下承を得た上で決定することとした。

代表幹事：松尾

副代表幹事：三浦

渉外：海老原

行事・企画：*関本、大槻、石橋

ネット：*高宮、箕輪

編集：*大浦、箕輪

選挙：*木川田、古田、三浦

会員：*宮本、藤

会計：*澤幡、宮本、三浦

監査：海老原

*は各担当の責任者

c) 11/12開催の日豪連携セミナーの報告と大学開放研を通じた ANSTO の OPAL research reactor の利用について

・来年度以降の開放研の体制が不透明なこともあり、開放研を通じた OPAL の早い時期の利用開始は難しく、KUR と JRR-3 の再開（来年度～再来年度）までに体制を整えるのは困難であると考えられる。

d) ホームページの更新について

・更新されていないところはいくつかあるので、箕輪幹事に更新忘れをウォッチしてもらい、更新の必要な箇所があれば高宮幹事に連絡し随時更新を行うよう改善する。

e) 会誌の発行について

・No.30 については大浦幹事からのメールの通り。即ち、年内に発行したいと考えているが、それには努力を要する。9/11 の拡大幹事会と 9/13 の総会の議事録も No.30 に掲載予定。

- ・ No.31 については、大浦幹事よりメールにて、特集として「オーストラリアの放射化分析事情」はどうかという提案があった(IPAA や荷電粒子放射化分析がなければ中性子放射化分析事情)。海老原幹事を通して ANSTO の Bennett 氏にゲストエディターを依頼する。
- ・ 今後も大浦幹事を中心に幹事全員で特集記事の内容を検討していく。

f) その他

- ・ MTAA 余剰金の一部返却について

国際放射化分析委員会より MTAA12 の会計報告をするよう依頼されており、余剰金の一部について寄付（返却）するよう要望があった。JA3 としては要望に応じることを本拡大幹事会で了承し、返却する金額の確定後に幹事会に報告する。

- ・ 専門研究会報告書について

京都大学原子炉実験所のレポートとしての専門研究会報告書の発行は必須事項ではなく、紙媒体での配布が効果的であるとも考えられないため、今後は行わないこととする。したがって、特別会計からの発行費用の補助支出は今後不要となる。

これまでは、専門研究会報告書と放射化分析誌の両方に発表資料を掲載していたが、今後は放射化分析誌での掲載に 1 本化することにする。その部分の編集のために、関本幹事をゲストエディターとして加えて作業を進める。今後はプログラムの中から興味深いものを編集委員会で選び、解説記事として A4 で 3~5 ページ程度書いてもらう案が出た。詳細は編集委員会で検討してもらう。

- ・ 会誌の表紙について

会誌の表紙は創刊以来同じデザインで継続してきたが、きりもよいので会誌 No.31 からはデザインを変更して発行することとする。新たな表紙デザインは、編集担当の箕輪幹事が中心となって決定する。